

事業概要

**コンソーシアム名：**土地家屋調査士業務改善コンソーシアム

**事業概要：**顧客からの「確定測量」「表題登記」業務において、複数のクラウドサービス間でのデータ連携を行い、2重入力の排除、属人化の排除、経営の見える化を行い、生産性の向上を目指します。

【取組地域】

東京都、愛知県

【対象業種】

士業

【対象業務】

土地家屋調査士業務

コンソーシアム構成員

**幹事者：**株式会社船井総合研究所

**中小ユーザ企業：**

株式会社スペース設計、土地家屋調査士法人キャストグローバル

**ITベンダー等：**

株式会社船井総合研究所、サイボウズ株式会社  
M-SOLUTIONS株式会社、株式会社ソウルウェア  
free株式会社

現状の業務課題

【経営の視点での課題】

- ・経営数値（売上や件数など）が紙での管理やExcelでの管理となっており、リアルタイムに把握することができず、適正な経営判断ができていない。
- ・非効率業務からくる残業の削減と労働環境の改善。
- ・依頼された業務を納期通りに進めるための仕組みがなく、業務完了が遅れ、顧客満足度がさがること。
- ・人材教育の体制がなく、スタッフの即戦力化ができていない。

【業務の視点での課題】

- ・最初から最後まで担当者が業務を行うため、ブラックボックス化しやすく、また効率が悪い。
- ・業務の進捗状況や問題点などが所内に共有できておらず、顧客満足度の観点から見ても、満足度が高い状況とは言えない。
- ・ニッチな業界であるため、業界に特化したシステムがなく、紙やExcelになってしまふ。
- ・様々なツールが導入されているが、同じ内容を違うツールに入力している。

連携させるITツール

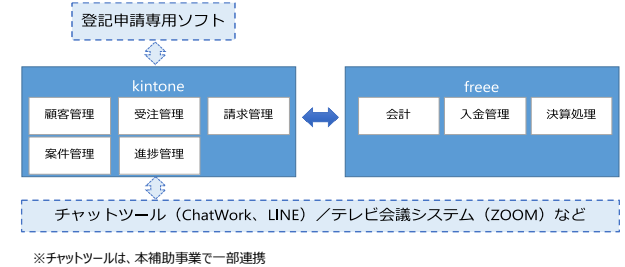
kintone：顧客管理、案件管理、タスク管理  
Repotone：帳票出力サービス  
Smart at：kintoneとメールとチャットの連携機能  
会計、人事労務free：経理・会計

主な取組内容

- ・kintoneに入っているデータをもとに請求書を発行（RepotoneUを活用）
- ・kintoneに入力した請求データを会計システムに再度入力することなく、取引データとして利用するため、会計freeと連携（free for kintoneを活用）
- ・kintoneで作業の進捗状況をスムーズに次の工程の人へ伝達（Smart@messageを利用）

- ・取引先からの新規案件をExcelでもらっているが、WEBフォームに入力してもらうことで、kintoneに直接情報が入力されるようにする（フォームブリッジを利用）
- ・kintoneに入っている情報をオンライン登記のシステムへの転機作業の自動化（RPAツールを想定）

システム連携イメージ



次年度以降の展望

独占業務の多い土地家屋調査士は、どの事業者も同じような業務をしていることが多い。業界の団体（協会）があるため、パッケージ化された本事業で構築した仕組みは横展開が可能なものになります。業界全体の効率化に貢献できる仕組みとして、業界標準の仕組みになることを計画しています。

定量的な成果目標

①労働生産性（事業終了後）

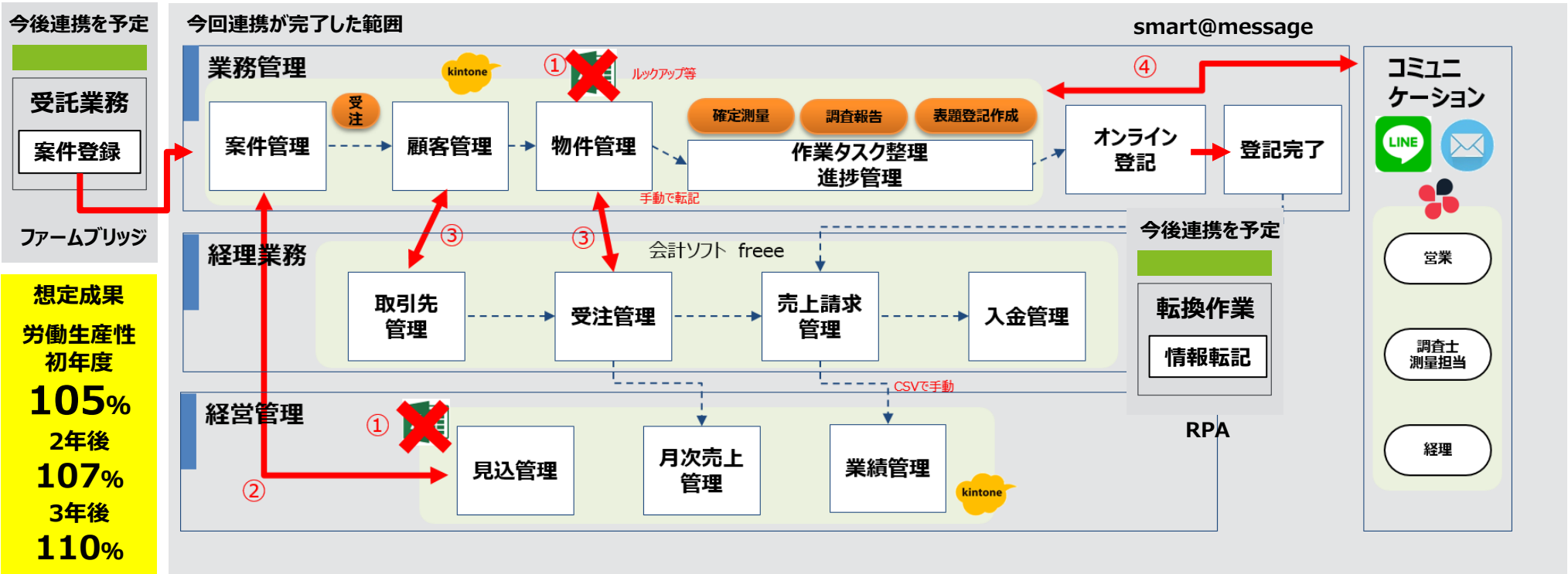
1年後：5%、2年後：7%、3年後：10%

②残業時間の削減率・向上率（事業終了後）

1年後：10%、2年後：10%、3年後：10%

# 汎用アプリケーションツールであるkintoneに情報を集約し、一元管理を行う。受発注業務はfreeeを使い、必要なデータはkintoneと連携・同期する

## ITツールの連携による生産性向上の取組（アフター）



想定成果  
労働生産性  
初年度  
**105%**  
2年後  
**107%**  
3年後  
**110%**

- 【解決策】**
- ① エクセルで行っている業務をkintoneで行う
  - ② 案件管理で登録している見込管理をkintoneで行う
  - ③ kintoneで登録している顧客 = 取引先、物件 = 受注をfreeeに連携できるようにする
  - ④ 作業タスクのステータス変更などのタイミングで、コミュニケーションツールに通知を出す
- 【効果】**
- 一部EXCELで行っていた管理をすべてkintoneで管理することで、情報が一元管理できる
  - 上流で入力したデータを、会計システムに連携することで、2重入力を防ぐことができる
  - データの変更があった際に、必要に応じてコミュニケーションツールに通知することで、漏れをなくすることができる
  - 上記の業務を今まで集計作業や口頭での伝達を行っていたが、今回の連携で省人化・自動化が可能になり労働生産性は105%アップ（3年後 110%）が可能になる

- ...今回連携した箇所
- ...今後連携を予定
- ...業務内容
- - - - -> ...業務の流れ
- > ...ITツール間で連携済み